



府中かんきょう市民の会

NPO法人 府中かんきょう市民の会会報
 2020年秋号 10月14日(水)発行 通巻78号
 発行人 小西 信生 (府中市四谷6-19-20)
 TEL 042-405-8524
 編集人 葛西 利武
 (府中市市民活動センタープラッツ登録団体)

令和3年2月
開設予定

「西府町農業公園(仮称)」整備工事と 体験学習施設新築工事がすすむ

西府町4丁目に、来年2月に開設予定の西府町農業公園(仮称)の整備が進められている。当地はこれまで市民農園として利用されてきたところで、都立多摩療育園の北側に位置している。甲州街道から至近で、約3,461㎡の広さがある。

府中市の今年度予算には農業公園管理運営事業として160万円が計上されている。「令和2年度予算のあらまし」をみると事業内容は次のように説明されている。『令和3年2月に農業公園を西府町に開設し、農業体験講座や収穫体験イベントなど市民が農業とふれあう機会を提供します』。

整備工事等の内容と事業者、落札金額は右の通りである(入札は今年3月19日に行われた)。

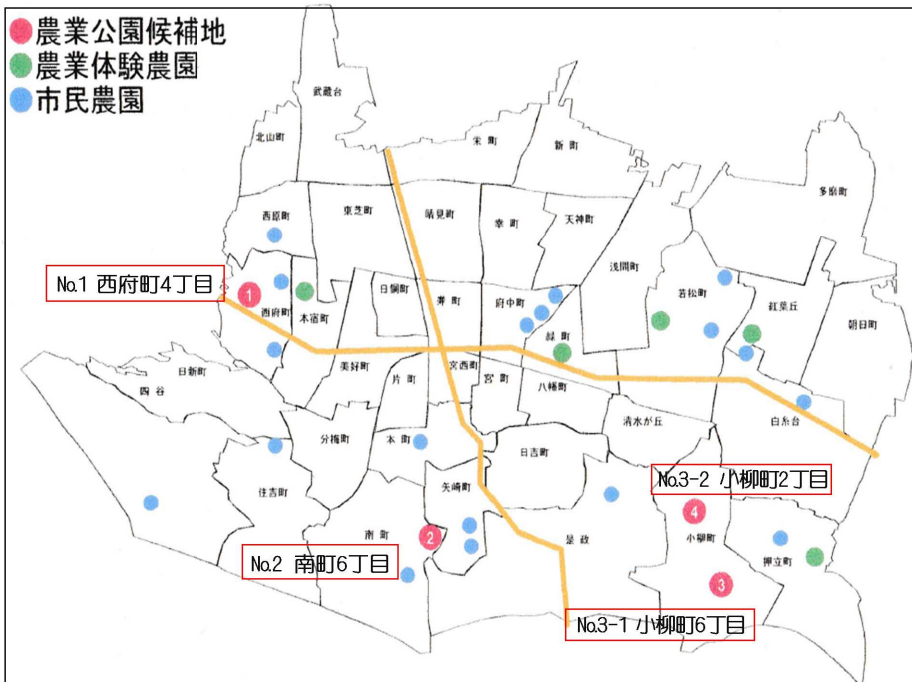
- 西府町農業公園(仮称)整備工事
 事業者 株式会社東京緑化
 落札金額 9300万円
- 西府町農業公園(仮称)体験学習施設(管理棟)新築工事
 事業者 株式会社総合建設ケーツー工房
 落札金額 8350万円
- 2つの工事の合計 1億7650万円

農業公園配置計画図 (2017年7月現在)

10月には、
読者のみなさまにも訪ねてほしい!

工期は2つの工事とも11月20日である。現在は写真(9月19日撮影/写真2点㊦)のように、農業公園整備は圃場の真ん中を通る通路が造られている程度だが、井戸は水を汲み上げられる状態になっている。体験学習施設の外部はほぼ完成し、これから内装が行われる。この会報がみなさんに届くころには、圃場(畑)の整備が進み、広々とした姿が見られると思う。

今後の課題、農業体験講座や収穫体験イベントなどの管理運営の手法(業務委託もしくは指定管理者制度が考えられる)、運営主体(運営する団体)、次年度以降の管理運営費などである。農業公園条例も12月議会には提出されるはずである。



西府町農業公園が成果をあげないと、ほかの2か所の設置が危うい

運営手法や運営主体は秋口には決めないと2月開園に間に合わないと思われる。どのようになるのか、市民の会としても注目していきたい。今年度の管理運営費は1か月80万円だから、単純に



体験学習施設の外観、ほぼ完成

平年度化すれば80万円×12か月で960万円でしかない。この金額で十分かどうかなど、引き続き市民の会としても市に対して要望していきたいと思う。

なお、市の計画では西府町農業公園を含めて3か所の農業公園を設置することになっている(西府町のほかには南町と小柳町)。ただし、西府町農業公園が成果をあげないと次の2か所の設置は危うくなる?



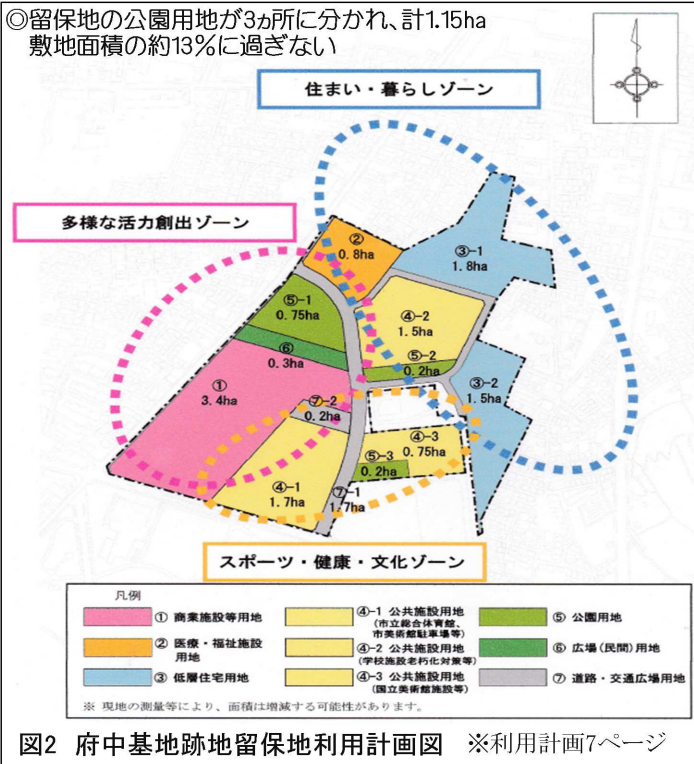
中央は井戸(圃場は中央通路が出来上がっている程度だが、井戸はすでに水を汲み上げ可能)

成果をあげるカギは、市民が参画できる運営を行っていくことと、十分な管理運営費を確保することであることはいまでもない。

(伊藤久雄)

「府中基地跡地留保地利用計画」 「府中基地跡地留保地利用問題」を考える

「府中基地跡地利用問題」は当会における長年にわたる関心事である。府中市が本年2月に策定し、3月26日国へ提出した「府中基地跡地留保地利用計画」と、当会の過去の「会報記事」を読みくらべて「府中基地跡地留保地利用問題」を考えてみた。以下はその私見である。



- び「国立医薬品食品衛生研究所」の移転を前提とした利用計画を国に提出。
- 2011(平成23)年「国家公務員宿舎」移転中止。2012年には「国立医薬品食品衛生研究所」が多くの反対で移転中止となり、新移転先は神奈川県川崎市川崎区殿町
- 2016(平成28)年2月 「府中基地跡地留保地活用基本方針」策定
- ☆2016年夏号23面「府中市に意見提出 府中基地跡地の土地活用に向けて」竹内章／過去に市に提出した意見等を踏まえ、当会の総まとめの意見を提出。
- 2018年3月17日 市民ワークショップ開催、当会3人参加。多くの方が「緑」に関心。同年7月20日は1人参加。
- 2020(令和2年)年3月26日 「府中基地跡地留保地利用計画」を国に提出

次世代のための「緑地空間」を！

上述のように1975年に国に返還されて今年で45年。アメリカ軍に接収された1945年からみると、75年のときを経てこの地は現代にタイムスリップするわけである。しかし、実際にはまだ工事に着手していないので、さらに数年放置された状態となり、約80年ということになるだろう。

新しい建物(以下、「箱物」という)はいつでも建てることができるが、長期間蓄積された自然を一旦壊すと再現は不可能だ。このような街づくりの視点にたてば、ここでいう「公園緑地」のさらなる拡大が必要となる。返還から75年が経ち、樹木が繁茂し大都市圏に残された貴重な「緑地空間」で、再びこのような土地確保が期待できないため、長期的視点から考える必要がある。

基地跡地が返還されるまでの経緯

- 1941(昭和16)年3月 陸軍燃料廠開設(年月諸説あり)
- 1945(昭和20)年8月下旬 日本の敗戦に伴いアメリカ軍が接収(年月諸説あり)
- 1975(昭和50)年6月30日 通信施設を除いて54.1ha返還。返還された約1/3は航空自衛隊府中基地。府中市立浅間中学校、都立府中の森公園、府中の森市民斎場、府中の森芸術劇場、府中市美術館、平和の森公園、府中市生涯学習センターが約1/3。残余の約15.3ha(東京ドーム3個分以上)が留保地となった。本稿はその留保地の活用問題である。

市の施策と当会会報など(○市 ☆当会)

- ☆2002(平成14)年秋号3面「国立衛生研が進出してくる府中基地跡地問題で府中市に要望」落窪一人／要望書の3項目。1.留保地の土地利用は100年先を見通したまちづくりの集大成 2.周辺も含めた環境形成に寄与するみどり空間の担保 3.ファミリーが一日過ごせるレクリエーションエリアの創出。
- ☆2003年 当会は、国から民間に売却方針が示されたこの頃から府中市に様々な意見・提案を提出。
- ☆2007(平成19)年冬号6面「基地跡公園は豊かな緑残すものに」田中正仁／自然公園のイメージ提案。
- 2008年 10月31日 府中市が「国家公務員宿舎」およ



筆者の「緑地空間」のイメージは以下である。倒木の恐れのあるものを除いて現在の樹木を極力残し、道は決して舗装などせず小径にし、そこには廃材をリサイクルしたチップをひく。チップは雑草の発育抑制に効果があると言われ、サクラ・ヒバ・ヒノキ・広葉樹などがよい。ヒノキであれば匂いよく、なおよし。

樹木には巣箱を取付け、ネームプレートも取付けたい。休憩用としては数か所に小さなベンチを設ける。いくつかの小径には名前を付ける。たとえば「苔小径」、「森林浴小径」、「逍遥小径」、「木漏れ日小径」などである。

「緑地空間」は留保地の1/3(5ha)～半分(7.5ha)程度は必要

この計画では敷地面積約14.9haのうち公園用地は3か所に分散し、それぞれ0.75ha、0.2ha、0.2haの小間切れになって計1.15haである。敷地面積のわずか約13%に過ぎない。しかし、少なくとも留保地全体の1/3の5ha以上～半分7.5ha程度は確保するべきではなかろうか。

それに比べて、商業施設、医療・福祉施設、低層住宅、総合体育館、市内小中学校の老朽化対策、国立美術館の保管収蔵研究室設置等のいわゆる「箱物」の総面積は11.45haもある。多くの市民が望んでいた「緑地空間」はその1/10に過ぎない。これでは、1980年代に社会問題となった過度のインフラストラクチャーに基づく「箱物行政」と言われても仕方ないだろう

ちなみに筆者は、2017年11月6日～2019年9月30日まで約2年近く「府中市緑の基本計画検討協議会委員」として「府中市緑の基本計画2020」策定に関わった。その86ページには、「(留保地の)核となる公園・緑地等を整備し」、「(市の)緑豊かなまちというブランドイメージ」、「新たな緑の空間としての役割については、周辺の大規模公園等との連続性を考慮して検討し」等々という文言がある。はたして、これらの文言との整合性はあるのだろうか。

この計画では「緑の連続性」が途切れる

当会会報でも述べているが、「大都市圏に残された数少ないまとまった土地で、再びこのような土地確保はできないため、100年先を見通したまちづくりの集大成」の視点が求められる。100年先の中核とは、あくまでも「緑」であろう。箱物はいつでも作るができるが、原生林に近い「緑」はそうはいかず、長期的視座にたった施策が求められる。

この利用計画では、「浅間山—留保地—府中の森公園」と連続した緑のラインが中央部で途切れる。したがって、一度立ち止まって、次世代に向けた「緑」の賢い活用方法を考えていただきたい。また、留保地の「緑地空間」の名前には、武蔵野のイメージを継承するため「武蔵野」あるいは「武蔵野の杜」等の文言をいれるとよいだろう。

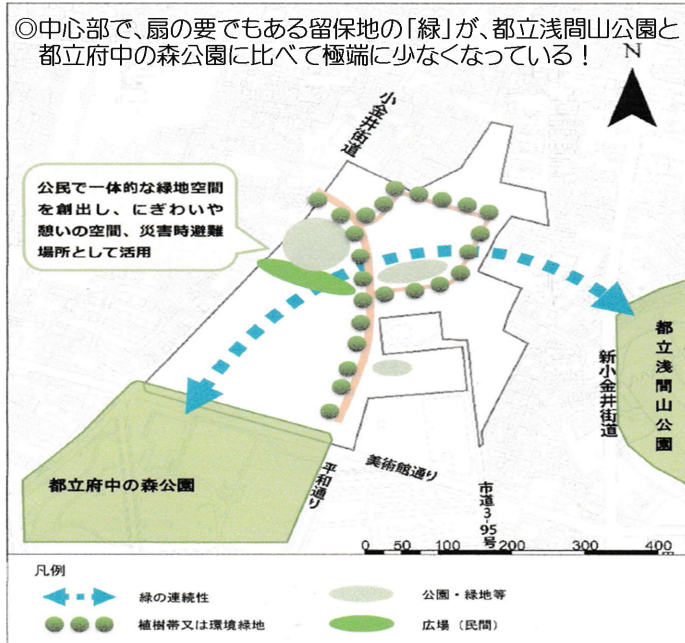


図4 公園・緑地等に関する方針※利用計画10ページ

浅間山自然保護会、府中野鳥の会、当会の3団体が要望した(株)環境管理センターの生態系調査結果報告

会報2010年春号3～4面「府中基地跡地の自然環境調査を考える」/府中基地跡地検討プロジェクトには、(株)環境管理センターによる生態系調査結果(2008年10月16日～2009年7月22日)が記載されている。調査の2008年時点でもすでに60年以上の自然の蓄積があるので、貴重な調査記録だ。



<調査結果>◎植物相は356種で植栽樹林が多く面積を占める。サクラの大木92本確認。アレチノギク、ヨウシュヤマゴボウなど帰化植物も多い。植生については、ミズキ群落等8種類の群落と植栽樹木群落が広い面積占めている。◎動物では、哺乳類が5種(記述なし)。鳥類は52種、オオタカ、コサメビタキ、他。営巣は確認されない。爬虫類は3種で、ヤモリは廃屋に生息。トカゲは樹林地に生息。両生類(記述なし)。昆虫類は491種で、コノシメトンボ、ヒグラシ、オナガアゲハ、他。クモ類は102種でキシノウエトタテグモ、キノボリタテグモ、他。土壌動物は123種でケシガイ、他。◎生態系。計画地は台地・落葉広葉樹樹林を基盤とし、中型哺乳類のホンダヌキを上位消費者とした生態系が成立していると推測。

なお、「調査結果に伴う提言」については8項目あるが省略する。当会HPに掲載されているので興味のある方は検索をお願いしたい。また、環境問題の「負の側面」である土壌汚染問題に関しては今後の課題であろう。

「浅間山の保全活動」を教訓に！

最後に、「留保地」と緑の連続性でつながるべく「浅間山の保全活動」について調べてみた。その概略は以下である。戦前は江戸時代から農家の薪炭林として使われ、戦中は陸軍に接收され燃料貯蔵タンクが設置され、さらにレーダー基地も設置された。戦後は地元払い下げられ、それを一部住民がS住宅に転売したため、S住宅は早速ブルドーザー数台で山裾を崩し始め、全山の本格的宅地造成計画を推進した。その案件を1957(昭和32)年の市議会全員協議会にて審議したが、多数決でS住宅の案件は承認された。

それに対して公園化主張は3議員であったが、そのうち故蕪木清次氏と故吉野正二氏の2議員が、東京都や総理府に3日連続で陳情、直訴に及んだ。その数日後には、当時の小林茂一郎市長に浅間山の都市公園化の方途が伝えられ、全山が段々式の住宅地にならずに済んだ。

現在では浅間山は、日本唯一どころか世界唯一の「ムサシノキスゲ」の自生地となり、多くの方が来園し環境活動のメッカとなっている。「次世代に向けた100年先を見通す」とは、こういうことではないのだろうか。(葛西利武)

昨年につき 今年も大掛りな『西府崖線』の樹木保全 事前現地調査活動

～元来生息していた絶滅危惧種を増やし、継続的な樹木の維持管理を求める～

2020年7月21日(火) 9:00～11:45

公園緑地課と西府チーム、伐採・剪定業者の計11名で作業前の現地調査と希少生物エリアの確認を行なう。市は、作年度同様、今年度も西府崖線の未保全エリアの樹木伐採・選定を行なうため、昨年度同様、武蔵野元来の樹木の保全と「シュロ」等の伐採の継続を当会、業者と確認した。

当会からは長年保護してきた絶滅危惧種のエリアと広がりつつある場所について細かく指摘し、作業時に刈り取ることのないよう通知した。

9:15～10:45 「あずまや」～大山道～崖線上へ
民有地、国立市との複雑な境界を確認



市職員が業者と市境確認



本宿町緑地の「キツネノカミソリ」



「あずまや」の西側急傾斜地に新たな「キツネノカミソリ」生息 確認。眼下は市川緑道

(浅田多津子)

昨年度作業実施場所からは、新たな「シュロ」の芽吹きが多数ある。湧水池付近でムサシアブミ、カントウタンポポの生息エリアを確認する。今年度も崖線にふさわしくないシュロは伐採する方向で進め、武蔵野元来のケヤキ、コナラの剪定、オオヤマザクラ、モミジ、ウコギ、シロダモ、ネズミモチ、クロガネモチ、クロウメドキは生育を見守る。

業者に会報No.76(前々号)の保全記事を渡し、昨年度の作業内容について再確認し合う。市は、民有地や国立市境が分かりづらい崖線下の境界を業者と確認。崖線上の民有地駐車場わきの緑色フェンス沿いを歩き、ツタが巻き付いたニセアカシアを伐採することを確認する。⑮はその写真。

市は、この2年間かけて大掛りな西府崖線の樹木の伐採と剪定を行なおうとしている。高木と低木がはっきりと見通せるようになり、下草の中から希少生物が育つ環境が現れている。専門的見地を含めさらなる工夫が求められる崖線の急傾斜地の緑保全については、三者のみならず、近隣住民とも合意しながら進める必要がある。『多くの市民から愛される府中崖線のあり方』のモデル地域となることを目指す。



11月は市民協働推進月間!

第6回目の今年の「市民協働まつり」はオンライン主体で開催

ブラッツのチラシ

【開催告知】第6回府中市市民協働まつり【毎年11月は市民協働推進月間】

毎年11月「市民協働推進月間」に開催される府中市市民協働まつり。第6回目となる今年は、オンライン主体での開催予定です!



今年の市民協働まつりは、コロナ禍でこれまでのまつり運営とは違った手法で行なうことが求められることが前提の中、「企画委員会」に当会の理事長も参加しながら、対策と実行委員会運営手法、企画検討などが進められています。「実行委員会」では、これまで以上に情報発信や情報交換ができる環境をいかにつくるか、zoom会議上で話し合いが行われています。

11月1日から約1か月、Web上で毎日替わる「今日の団体クイズ」に当会参加予定。「2020市民協働まつり」Hpから当会の動画が見られるように、9月末締切りに向けて、写真収集やナレーション作成の作業にも取り組まっています。市民活動センター主催『ビデオエディター』作成講習会に参加し、Web上で多くの方々に当会の20年間の活動を知らせる手法に初めて臨んでいます。



動画編集を高田 真氏から学ぶ

動画編集を高田 真氏から学ぶ
『ビデオエディター』作成講習会に参加し、Web上で多くの方々に当会の20年間の活動を知らせる手法に初めて臨んでいます。

(市民協働まつり実行委員会/浅田多津子)

農園塾は楽しい！

府中町「農園塾」の塾生になって

川寄英雄 竹田 勇
安藤良則の3氏寄稿



8月14日(金)の全員集合日

畑に行かないと親づるも子づる、孫づるは絡み合い、何が何だかわからない状態になってしまいます。

それでも黄色の小さな可愛い花が沢山咲いており、整枝する手が止まってしまいます。このような見様見真似の作業にも関わらず、今季はたくさんの美味しいキュウリが収穫できました。7月は連日の雨と高温で中ごろにはキュウリは全て枯れてしまいました。

本日8月14日(金)は秋、冬作に向けて炎天下の中荒起こし作業をしています。秋作は害虫も多く出てくるので、その対策も講じながら収穫を楽しみに頑張りたいと思います。

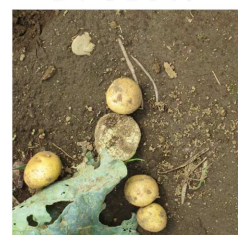
(川寄 英雄)

新規コロナ感染防止策及び熱中症防止を意識しながら野菜栽培を仲間と楽しんでます。

今期夏野菜は5月連休明けにトマト・ピーマン・ナス・キュウリ中心に、他にはオクラ・トウガラシ・エダマメ・ネギを植え付けています。年越しのタマネギ・ニンニクもあります。関東の春は気圧の関係で強風が多く、ときには雹も降ることもあり、安定する連休明けを待ってしっかり支柱を立て誘引を施し、風で倒れないよう丁寧に苗を植えていきました。

キュウリの可憐な黄色い花に見惚れる

キュウリはその中でも成長が早く、親づる・子づる・孫づるをよく観察して誘引してつるを伸ばしたい方向へ導き整枝しながら子づるの摘芯、下葉の摘葉するのですが、4~5日



編集人が7月3日(金)に取材で伺った
おり、ほんの一部の収穫物を撮影

農園塾で栽培された野菜：(2019年4月~2020年4月)

春の野菜

| | | |
|-------|--------|-------|
| バラ科 | イチゴ | (2区画) |
| ナス科 | ジャガイモ | (4区画) |
| アブラナ科 | キャベツ | (3区画) |
| ユリ科 | タマネギ | (6区画) |
| アブラナ科 | 春ダイコン | (5区画) |
| ユリ科 | アスパラガス | (3区画) |
| マメ科 | インゲン | (2区画) |
| マメ科 | サヤエンドウ | (4区画) |

夏の野菜

| | | |
|-------|--------|-------|
| ナス科 | ミニトマト | (2区画) |
| ナス科 | ナス | (4区画) |
| ナス科 | ピーマン | (3区画) |
| イネ科 | トウモロコシ | (5区画) |
| ウリ科 | カボチャ | (2区画) |
| ナス科 | シシトウ | (3区画) |
| アオイ科 | オクラ | (2区画) |
| ウリ科 | キュウリ | (3区画) |
| シナノキ科 | モロヘイア | (3区画) |
| セリ科 | パクチー | (1区画) |
| マメ科 | エダマメ | (6区画) |
| マメ科 | ラッカセイ | (3区画) |
| マメ科 | インゲン | (3区画) |
| ショウガ科 | ショウガ | (2区画) |
| ウリ科 | スイカ | (1区画) |
| キク科 | ヒマワリ | (1区画) |
| ゴマ科 | 白ゴマ | (1区画) |

秋冬の野菜

| | | |
|-------|----------|-------|
| アブラナ科 | チンゲンサイ | (1区画) |
| ヒルガオ科 | サツマイモ | (7区画) |
| サトイモ科 | サトイモ | (2区画) |
| アブラナ科 | カブ | (6区画) |
| アブラナ科 | 冬ダイコン | (5区画) |
| セリ科 | ニンジン | (6区画) |
| ユリ科 | ニンニク | (4区画) |
| アブラナ科 | キャベツ | (4区画) |
| ユリ科 | ネギ | (3区画) |
| アカザ科 | ホウレンソウ | (3区画) |
| アブラナ科 | コマツナ | (4区画) |
| アブラナ科 | キョウナ(ツナ) | (2区画) |
| アブラナ科 | ハクサイ | (4区画) |
| キク科 | シュンギク | (2区画) |
| キク科 | レタス | (6区画) |
| アブラナ科 | ブロッコリー | (3区画) |

※区画割りは前号の夏号(通巻77号)3面をご覧ください。

- 解説：1) 過去1年間で栽培した野菜の一覧。野菜以外の作物は、皇帝ダリヤ、虫よけ花卉。
 2) 総じて上出来(塾生の皆様の栽培技術レベルが高い。仕事熱心であることに由来)。
 3) 殆ど無農薬栽培で済みます。指で虫を駆除、虫よけ花卉、混植で防いでいる。
 4) 水源がなく水不足で困ったが、自宅から持ち寄り、乾燥に強い作物を選んで解決した。
 5) 植物学的分類(〇〇科)で同じ科の連作は避ける、特にナス科のものは避ける。

竹田 勇 (日本農薬学会終身会員)

農園塾で栽培された野菜／2019年4月~2020年4月 (竹田 勇) →6面に続く

栽培記録／2019年4月～2020年7月 (安藤 良則)

栽培記録 2019年4月～2020年7月

安藤良則

| 作物名 | 播種、植付け日 | 収穫日 | 自己評価及びコメント |
|--------------|---------|--------|---------------|
| キヌサヤ | 11/8 | 4月～5月 | B |
| ノラボウ | 10/2 | 3月～4月 | B |
| ジャガイモ | 3/6 | 6/20 | C |
| トウモロコシ | 4/16 | 7月 | C |
| ソラマメ | 3/26 | 枯れる | C アブラムシにやられる |
| トウガラシ (シシトウ) | 3/28 | 6月～ | A |
| ピーマン | 5/16 | 6/13～ | A |
| エダマメ | 4/16 | 6/20 | C 生育中、2度めの種まき |
| ダイコン | 5/13 | 8月、11月 | C 虫に食われる |
| カブ | 5/13 | 8月 | C |
| ニンジン | 5/13 | 7、8月 | C |
| コマツナ | 4/16 | 6/20 | B |

| | | | |
|--------|------|--------|------------|
| レタス | 5/15 | 7月 | B 収穫中 |
| ナス | 4/15 | 6/20 | A 収穫中 |
| ハクサイ | 9/17 | 12月 | A |
| チンゲンサイ | 9/17 | 11、12月 | B |
| イチゴ | 6/20 | 生育中 | |
| タマネギ | 11/7 | 6/4 | 春蒔きはダメ |
| トマト | 4/15 | 6、7、8月 | B 収穫中 |
| キュウリ | 4/15 | 6、7月 | B |
| インゲン | 5/30 | 7月 | A |
| モロヘイア | 5/15 | 7、8月～ | A 生育中 |
| サツマイモ | 6/21 | 10月 | A 生育中 |
| ゴーヤ | 6/5 | 生育中 | |
| ラッカセイ | 6/5 | 生育中 | 隣のJAより苗もらう |

食料自給率の向上と食料安全保障を確立

食料・農業・農村基本計画

小規模経営や、家族経営も支援

耕作放棄の増大で危機的状況にある日本の農業基盤をどう立て直すのか。その指針となる「食料・農業・農村基本計画」を政府が3月31日閣議決定した。向こう10年の農業政策の指針で、5年毎に見直し、今回は規模の小さい経営や家族経営も支援する方針を打ち出したのが特徴だ。

基本的な方針として「産業政策」と「地域政策」を車の両輪として推進し、将来にわたって国民生活に不可欠な食料を安定的に供給し、食料自給率の向上と食料安全保障を確立”するとしている。(農水省資料 2020/3)

以下に本基本計画の「講ずべき施策」(農水省「新たな食料・農業・農村基本計画骨子案」(2020/2/21))について紙面の都合上、主要部分のみを記述する。

基本的な考え方

- ①【食・需要】人口減少に伴う国内生産自体が縮小する懸念が大であり、農業者等と食品事業者等との連携強化により、加工用原料等の国内需要への対応や新たな市場の創出が不可欠。新たな輸出目標・農林水産大臣を司令塔として輸出の拡大、グローバル産地づくり。また、食品ロスやプラごみへの対応、食育等を通じた国民の理解を醸成。
- ②【人・農地】農業者の大幅な減少等により、農業の生産基盤が損なわれる地域が発生する事態が懸念。これを防ぐため、人・農地プランによる地域農業の点検の加速化と、各種施策の一体的な実施が不可欠。また、担い手の育成、法人化の推進、農地中間管理機構を通じた農地の集積・集約化に加え、円滑な経営継承に向けたマッチング・支援のパッケージ化、新たな農業人材の確保・育成パッケージの策定、農業支援サービスの定着を促進。経営規模の大小や中山間地域といった条件にかかわらず、農業経営の底上げにつながる対策を講じ、生産基盤の強化につなげていく。
- ③【技術・生産】高齢化や人手不足を解決し、生産性を向上させるスマート農業を加速化、データ駆動型農業を実現するデジタルトランスフォーメーション(註/右下にあり)、畜産競争力強化、麦・大豆の増産、水田の高収益作物への転換を推進。

農地集約や技術革新の効率化は道半ば

平成時代の農政は、企業的な農業経営の実現に注力した。法人経営が増え、かつてない規模の経営が登場する等一定の成果を上げた。それでも農地の荒廃や農村の衰退を止められなかったことが最大の課題であり、多様な経営のあり方を認める姿勢は評価すべきだ。

しかしながら支援の対象を広げようとするあまり、生産効率の向上に向けた流れを妨げてはならない。農地の集約や技術革新を通じた効率化は道半ばである。施策を具体化する上で国民の理解と支持を基本に据えたのも妥当だろう。

これまでは関係者による閉じた議論で決まることが少なくなかった。国産の重要性を訴えるという意味だけではなく、国民の声を広く農政に反映させるための切っ掛けにすべきだ。

多くの作物で、農地を守る方策を考えるべき

<以下に日本経済新聞社説(2020/4/4)を転載する。

筆者も同感である>

難題は食料自給率の向上であるが、今回も2030年度にカロリーベースで45%にする目標を掲げた。だが2018年度が37%であったように、目標を達成できる目途はない。農林水産物・食品の輸出額も2030年に5兆円にする。IT(情報技術)を生かした農業のデジタルトランスフォーメーションを進め、農業経営の革新を図る方針も盛り込んだ。

洋風化の現在の食生活のもとで、自給率を上げるのは至難の業だ。カロリーベースの自給率の向上には寄与しにくい野菜などを含め、様々な作物で農地を守る方策を考えるべきだ。新型コロナウイルスの混乱を通し、食品の安定供給の大切さも再認識された。農政は長期的にそれを可能にする生産基盤の維持に全力をあげてほしい。

(註)農業を成長産業化していくためには、発展著しいデジタル技術(ロボット・AI・IoT等)の活用を強力に進め、データ駆動型の農業経営を実現することが不可欠。その際、従来の営農体系に単にデジタル技術を導入するのではなく(デジタル化)、デジタル技術を前提とした新たな農業への変革(デジタル・トランスフォーメーション)を実現することが重要。

(渡部敏郎)

外出自粛のため軽減

府中市内の大気汚染調査(NO₂)調査

新型コロナウイルス感染症対応下の調査実施

府中市内の大気汚染調査(NO₂)調査を6月に行ないました。新型コロナウイルス感染症が終息してはいない中でもあり、当会の会員のみなさんの年齢は65歳以上が70%を超えており、万が一にも定例会で集まったときに感染があつてはならないとの判断と、2~3月頃の世界の大気汚染の状況が格段に改善しているとの報道もあり、緊急事態宣言後の府中の大気汚染の状況を調べることも必要なことだと考えて、6月10日(水)~11日(木)に調査を行ないました。

数値測定は翌12日(金)、これまで利用していた市民活動センター5階の団体活動スペースが閉鎖されたため、市本庁舎7階かんきょう保全活動センターで実施しました。

結果は、調査20カ所の平均値は0.022と過去の数値と比較してきれいな数値になっていました。「きれい」の判断の目安となる0.02以下の地点も、例年の2~5カ所程度が、9カ所と増えていました。今年の梅雨は6月11日午後から入梅宣言が関東地方に出ており、空気が雨で洗い流されたという影響もないようです。

新型コロナウイルス感染症の拡大で、外出自粛に努めざるをえない状況ではありますが、大気汚染の軽減といういいこともあるようです。

3月から9月にかけての状況

3月期の調査は中止しました。新型コロナウイルス感染症の状況がよくわからない状況で、東京都でも感染が拡大していたため、3月期の定例会は中止とし、外出自粛に



数値測定中の竹内章／市本庁舎7階のかんきょう保全活動センターにて

努めざるをえなかったためでした。

その後、緊急事態宣言が4月8日に発出され、5月26日の宣言解除、6月10日の東京アラート解除まで自粛を続けた結果、府中市の陽性者数も一時期少なくなりましたが9月22日現在陽性者数累計246人と衰えを見せていません。

また、9月現在国は、感染抑制と経済再生の両方の実現を目指しています。4~6月のGDPは二次速報値で年率減28.1%とされており、新型コロナウイルス感染症の陽性者数は緊急事態宣言期間中を大きく上回っています。

マスクで話題になっているGoToキャンペーンも、経済再生を達成する一助になるには不十分で、感染症拡大には増加に影響があった政策と言われそうです。

9月の調査実施状況

9月も6月期と同様に調査を実施し、NO₂の数値は0.021とさらにきれいになっています。景気後退とリンクしている可能性もそれなりにあります。(小西 信生)

昨年は
当会が受賞

「下堰緑地の会」東京都公園協会賞 優秀賞を受賞

第55回(2020年度)の受賞部門と受賞理由は以下

☆下堰緑地の会 《ボランティア・社会貢献活動部門》
☆「地域に“こころ”と“からだ”のオアシスを！」

農業用水路跡地の下堰緑地を保管理し、地域のオアシスとすることを目標に、希少種の保全や散策と憩いの空間創りに積極的に取り組み、防災や防犯、福祉面も絡めた地域活動として広がりつつある好事例と言える。



右から、櫻井さん、田上さん、高野市長、代表の山原さん、小西さん

一昨年は「府中かんきょう塾」の自主研究グループ、昨年は「NPO法人府中かんきょう市民の会」、今年はいち谷下堰緑地で活動している市民団体「下堰緑地の会」が東京都公園協会優秀賞を受賞した。同一自治体を中心にした活動が優秀賞を3年連続して受賞することは、府中市が初めてのこと。このことは、府中市の環境保全活動が活発、且つ極めて高いレベルにある証左でもある。

「下堰緑地の会」は、当会が保管理していたいち谷下堰緑地を引き継ぎ、「府中まちなかきらら」制度を活用して活動しているメンバー32人の団体であり、左の写真の内3人は当会会員。

高野市長に報告

今年には新型コロナウイルス感染症対応のため、例年の東京都公園協会による表彰式は開催されず、府中市に連絡して高野市長に受賞したことの報告に伺った。8月7日(金)13:30に4人で訪問し、写真は報告時のものだが、みな感染症対策としてマスクをしての報告会となった。

「下堰緑地の会」代表の山原さんの話によると、新型コロナウイルス感染症の影響で、外出自粛でもできる東京都公園協会賞に応募したとのこと。(編集部)

新たなジビエ事業への挑戦 害獣を「まちの財産」に。

岩手県大槌町復興へむけて

1.大槌町の概要

2011年東日本大震災が引き起こした津波によって、甚大な被害を受けた岩手県上閉伊郡大槌町。私は2017(H29)年からこのまちへ、新たな「ジビエ事業」の創出と持続化のお手伝いのために通い続けている。

大槌は、広大な面積を誇る岩手県沿岸の中心付近に立地し、隣接する釜石市、山田町とともにカキやウニをはじめ豊かな海産物に恵まれた漁場を有する「海の町」として知られている。内陸へほどなく入ると急峻な山々が遠野市まで続き、海と山が入り組んだ美しい大自然に囲まれた、まさにリアス式海岸を体現する固有の地形だ。

また、50年以上前にNHK総合テレビで放送された人形劇「ひょっこりひょうたん島」のモデルではないかといわれる「蓬莱島」や、「新巻き鮭」の発祥の地でもあり、大槌ならではの郷土料理含めて魅力的に感じる。

一方で大槌は、私自身が150回以上各被災地へ通い続けた中でも、被災状況や交通の便、自治体の規模なども相まって特に復興のスピードが遅れており、10年経った今でも津波の爪痕は沿岸部の至るところに散見される。震災後の人口減少率は県内最大の約23%に上り、若手人材の町外流出に歯止めがかからず、IJUターン者の獲得を目指すためにも新たな仕事の創出やコミュニティ形成は不可欠である。

2.ジビエ事業に取り組むきっかけ



④大槌鹿肉しゃぶしゃぶ
⑤大槌ジビエ勉強会の仲間たち。大槌鹿の大試食会にて

大槌には、宮城や熊本の被災者支援を共に取り組んできた仲間がおり、ニホンジカによる農林業被害が年間1千万円以上に及び、農林業者の営農意欲の低下や耕作放棄地の増加など深刻な課題となっている事を把握した。

一方で、狩猟で得た天然の野生鳥獣を食肉として活かすジビエにも関心が高まっている。大槌でも鹿肉、熊肉料理で有名な女性が、大槌内外の方へその滋味豊かなジビエ料理をふるまっておられ、旨いジビエ料理をもっと食べてもらいたいと願ってきた。猟友会には情熱的な若手ハンターがおり、その大槌鹿の旨味を自宅等で実感するたびに、野生鳥獣の命への感謝を込めて、どうかして生かしたいとの熱い思いが募っていた。しかし、岩手県にはジビエ加工施設が存在せず、原発事故の影響で県内のジビエ肉は一律で出荷制限をかけられており、ハードルが高かった。

3.大槌ジビエ勉強会

こうして、野生鳥獣に絡む社会的課題とジビエ事業化した住民の思いが結びつき、震災で疲弊した大槌で新たな仕事を創出するために、2017年から計40回に及ぶ「大槌ジビエ勉強会」を開催してきた。私は、野生動物の個体群動態やジビエ事業者の調査に携わってきた経験を活かして運営支援してきた。

同勉強会は、地元猟友会、ジビエ料理に取り組む住民や飲食業、観光関連組織、専門家、大槌町役場などと多岐に

渡る。先進地視察を重ね、失敗事例を分析し、試食会を開催して町民の賛同者を獲得し、ジビエ事業の価値を共有できた。また安全・安心を前提に、岩手県のジビエ加工施設に必要な衛生基準等を検討し、2020年4月には県と町の連携による放射性物質の全頭検査体制も確立した。



同世代の仲間たち(左からOGSP代表、MOMIJI社長、筆者)

4.鹿肉加工工場「MOMIJI」と 大槌ジビエソーシャルプロジェクト「OGSP」

釜石・大槌のみ鹿肉の出荷制限が解除されたことで中心メンバーの若手ハンターが、同年5月に岩手県第一号となる鹿肉加工工場(MOMIJI株式会社)をオープンした。さらに、「害獣を『まちの財産』に。」をテーマに掲げ、多様な社会的課題の解決に結び付ける「大槌ジビエサイクル」の確立を目指して、「大槌ジビエソーシャルプロジェクト(OGSP)」がスタートした。OGSPは町民や事業者、専門家、大槌町との協働で取り組んでおり、得意分野を活かして、鹿肉や革・角の活用、ジビエ塾・ツアーなどジビエサイクルの各事業を担当している。

「MOMIJI」の大槌鹿は、大槌の新山(しんやま)高原で主に捕獲され、ミズナラやコナラなど木の実が豊富で若草が高原一面を覆っているため、餌資源に恵まれて肉質が良い。さらに1歳~3歳の若い個体のみを狩猟・血抜きして、狩猟後1時間以内に自社工場で処理するため、「旨味」「柔らかさ」「臭味のなさ」など高い評価を得ている。生産者と会話しながらオンラインで食材を買える「ポケットマルシェ」やSNSで口コミも広がり、新型コロナウイルスの状況にも関わらず全国から日々注文が届いている。

5.結びに



実は、府中市のジビエレストラン「Holiday 府中」も同勉強会の協力者であり大槌鹿を使用した素晴らしいジビエ料理を提供している(⑥写真)。私自身は東北各地で活動してきたが、府中でも協力の輪が広がることは心から嬉しい。皆さんもこの状況が落ち着くまでは、大槌はじめ各地の生産者のこだわりを自宅や身近な飲食店で食べて応援し、近い将来現地へ足を運ぶ楽しみを膨らませてみてはいかがでしょうか。(林 丈雄)

OGSP⇒<https://socialnatureworks.com/>



【参考Webサイト】



MOMIJI⇒<https://momiji-gibier.com/>